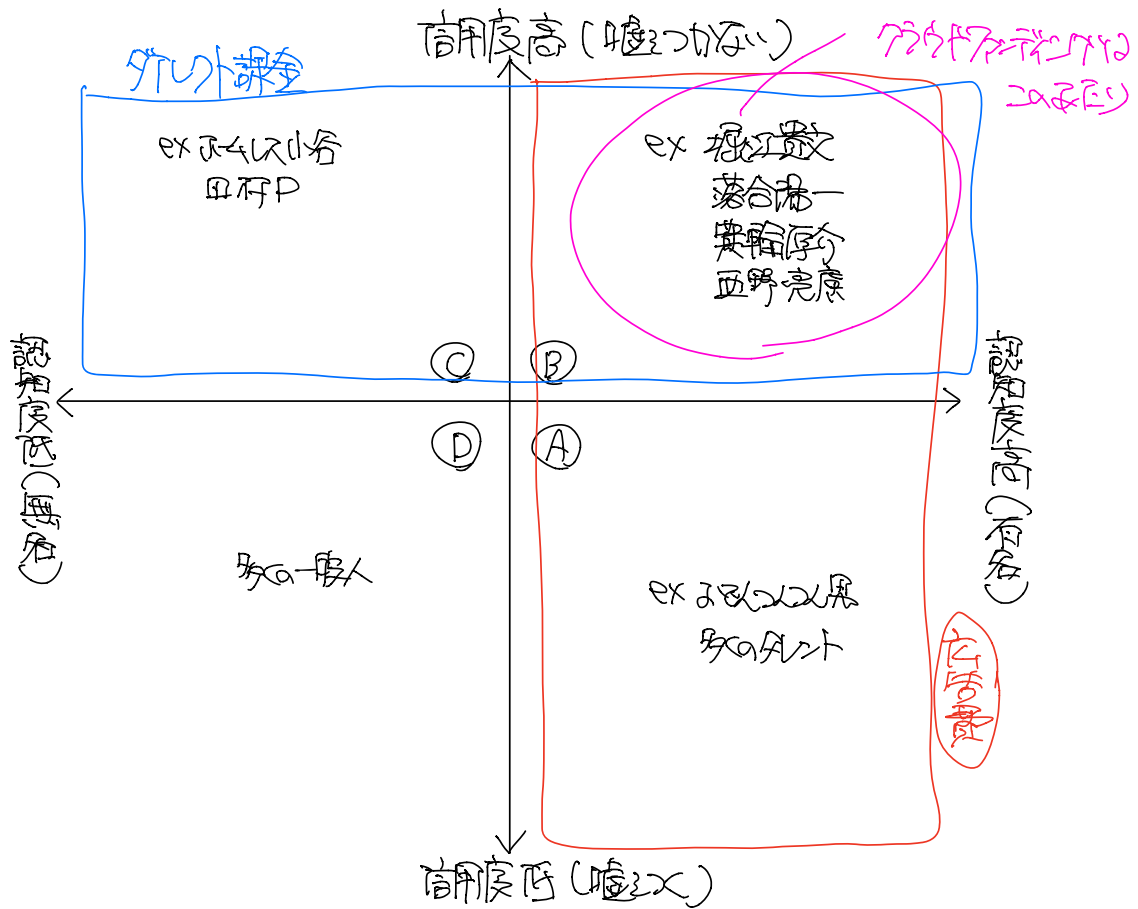


【第1章 貯信時代】

- ・ まかやら存せやないことは、「お金は汚い」といって「ジ」を捨てること。この「ジ」を捨てるに限り、僕らは挑戦できない身体のまま
- ・ クラウドファンディングは、信用のお金に換金可能な状態
- ・ 信用のお金は「お金が作られる」に及ぶまで。
- ・ 信用の標本方は、嘘をつかないこと
嘘をつくことで露出が増えたと、認知度は上がりかけた。人気度(信用度)は確率に落ちる
- ・ 嘘は、感情をなめる。環境にあてつかない



【第2章 オンラインサロン】

- ・ オンラインサロンが「アフィリエイト」で大きく稼ぐ仕組み! 「アフィリエイト」や「お金の流れ」が一応理解したい

- ・ 今日「作りこえ」が「構築」になる。完成品を受け取るのではなく、完成したものを
日常で達成感に西暦が刻まれている。



モノ消費からコト消費へと変わって
ここの究極形か？

お金とくっつくも体験したい。

Aにこっつくは報酬ではなく、Bにこっつくは、
お金とくっつくも体験したいこととどうやら
成立可。

ex 電車に乗りたい。半信半疑で乗りたい。

- ・ 自分で発信して信用が積まれる。積まれた信用を換金
できるようにする。

・ お金は 29 年ほど前、自分で作った時代になった。



優秀な人材は「給料」で釣られるようになった。

優秀な人材が 集まってきた。高い給料でもら

うことが 自分でもらった。『常に面白いことしてやる』

『自分』でやった。



会社は、社員に対して、『面白いことできる環境』

を提供できるように。それが 仕事になった。

『社員に使う会社』になった。『社員に使える』

会社』でやった。

・ 今こうやって加えても、もうすでに『アポイントメント』の時代。

『信用』と『現金』の装置

- ・ 本邦企業への需要は、印籠と作りの生産能力で、急増を抑制せよとの声
- ・ 「必要な集まる場所を提供し、」と主張、舞い降りない。和製は全く跳ね返すのが圧倒的。右側はインスタントに飛来する力が必要

・ 店検索から人検索へ

↑ 悪いと39知らない人も多少遠くても
知ってる人の力が強い。

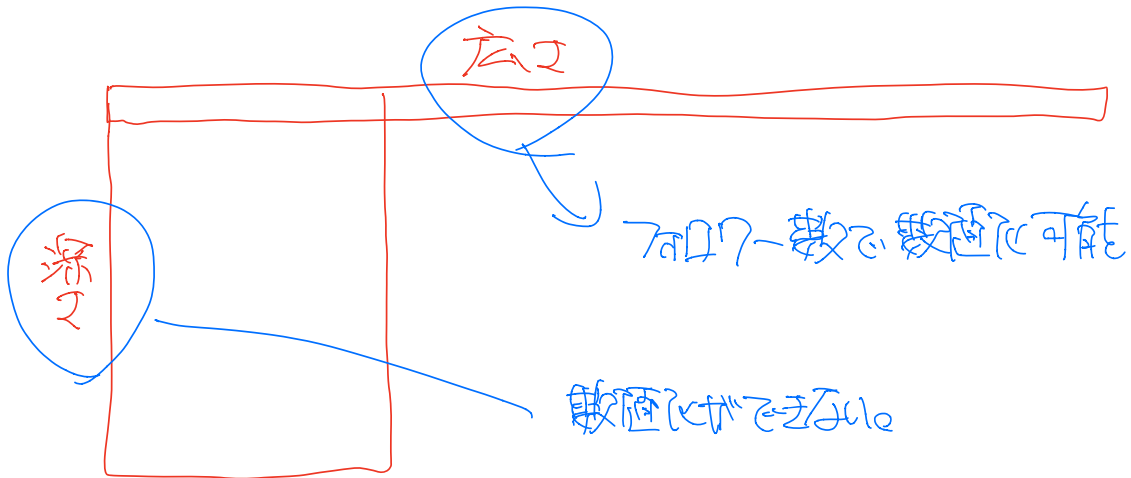
今頃のマーケティングの根本部分が変わる。

人の「信用」が重要になる。

【第3章 新世界】

- ・ 2011年に「評価経済社会」という言葉が広まった
= 貨幣ばかりに評価が流通する時代
この時代は、「お金持ち」だけでなく、「共感を集めて
成功」が社会を動かす。

「広さ」だけでなく「深さ」もある。



- ・ 人検索で店が選ばれる。「カリカエウ」の教習で店が評価され、そこで、その評価を受けた人が集まってきて、お店にお金が落ちる。

たにぶつにも、無名でも、誠実に仕事をする人が
報われる世界

||

無名の正面者と勝つ世界

狭い深い愛する人を探し出すことが
できる世界